

丸山邦雄氏の

満洲引き揚げの偉業に光を

3月の24日、31日、NHKで二回にわたり放映された特集ドラマ『どこにもない国』は、飯山富倉滝ノ脇出身の丸山邦雄氏を主人公としたドラマです。丸山邦雄氏を演ずる内野聖陽氏の迫真の演技により、丸山邦雄氏の偉業が真に迫るものがありました。

丸山邦雄氏の偉業は敗戦後の厳しい満洲を命懸けで脱出し、満洲の日本人の惨状を佐藤栄作氏・吉田茂外相等に訴え、敗戦国日本の支配の



ラジオ放送する丸山邦雄氏

最高司令官であったマッカーサー元帥と会見し、日本人引き揚げを実現したことにより、150万人を救ったことにあります。さて、丸山邦雄氏は明治36年(1903)6月28日、富倉村滝ノ脇で、父丸山幸作さん、母よしさんの次男として誕生。父幸作氏は柳原村長、長兄の忠夫氏は飯山市の第3代市議会議長を務め、弟の勝衛氏は飯山小学校長を勤めるなど地元で活躍されています。丸山邦雄氏は大正4年(1915)富倉尋常高等小学校を卒業し、上京後は勉学に励み、明治大学を昭和5年(1930)卒業、大学の推薦、拓務政務次官小坂順造氏の後援でアメリカへ留学しました。最終的にワシントン大学大



満洲・大連の街並み
(満洲脱出の際、家族は大連のカトリック教会に身を寄せていた)

学院を卒業、MA(修士)の学位を取得しています。留学中には排日移民法の改正を運動し、その改正を実現しています。この頃から、丸山邦雄氏の人々のために尽力する生き方が明確にみられます。帰国後は満洲へ渡り、戦後の日本人引き揚げの偉業につながることにあります。

丸山邦雄氏の引き揚げの偉業は、日本の戦後史で、戦争の本質と平和を語るうえで忘れてはならないことです。



丸山邦雄氏(右から2番目)

飯山の誇れる先人として、日本の歴史のうえからも偉業を顕彰し、今後も語り継ぐことが大切です。戦後、丸山邦雄氏は明治大学教授等を勤められ、昭和56年10月15日に逝去されました。現在は東京カテドラル聖マリア大聖堂に眠られています。

教育長 長瀬 哲

市内小中学校の校長・教頭先生の紹介



- ◆小学校◆
 - 秋津小学校長 蟹澤 友司
 - 飯山小学校長 村松 直昭
 - 高山小学校長 中澤 正幸
 - 泉台小学校長 竹田 頭光
 - 常盤小学校長 岸田 宜祐
 - 戸狩小学校長 吉澤 秀
 - 東小学校長 江守 義和
 - 木島小学校長 清水 常寿
 - 城南中学校長 日台 智子
 - 城北中学校長 森本 浩正
 - 富山小学校長 湯本 文洋
 - 富山小学校長 平野 弘蔵
 - 富山小学校長 藤澤 賢也
- ◆中学校◆
 - 城南中学校長 高橋信一郎
 - 城北中学校長 塩澤真千子
 - 富山中学校長 田中 昭道
 - 富山中学校長 富山 哲矢

活躍!! 飯山市の子どもたち

第21回花まる学習会杯 ジュニア本因坊戦

3月24日・25日に毎日新聞東京本社 毎日ホール(東京都千代田区)で開催された大会に、城南中学校1年の渡邊創太さんが出場しました。全国10地区22大会から代表32名を選出、中学生以下の囲碁日本一を決定する大会で、第1回目優勝者は国民栄誉賞受賞が決定した井山裕太七冠です。

渡邊さんは、昨年12月10日



渡邊創太さん(右から2番目)

開催の北信越地区長野大会で優勝し、全国大会出場を決めました。

ジュニアオリンピックカップ

3月17日〜19日に北海道名寄市、22日〜25日に岩手県雫石町でジュニアオリンピックカップが開催され、市内小・中・高等学校からアルペン4名、クロスカントリー30名の計34名が出場しました。

【クロスカントリー】
小学生の部男子フリー競技 優勝 岡田凜樹くん(飯山高2年)

クラシカル女子総合の部 優勝 祖父江凜さん(飯山高2年)

【アルペン】
スラローム競技 9位入賞 高橋駆琉くん(戸狩小6年)

ニユースポーツ教室開催

3月10日、飯山市スポーツ推進委員会(会長竹内亨)主催の児童向けのニユースポーツ教室が開催されました。この教室は、子どもたちにスポーツを楽しむ、スポーツを通

春のスポーツ大会交通規制のお知らせ

菜の花飯山サイクルロードレース大会、全日本学生ロードレースカップ、いいやま菜の花ゲートボール大会の同時開催に伴い交通規制を行います。安全な運行のために規制時間に変更となることがあります。

- 規制日時 4月21日④9:55～11:10・11:20～16:00
22日④8:20～12:15・12:50～14:20
 - 規制場所 長峰スポーツ公園・針湖池周辺道路
- 皆さまのご協力をよろしくお願いします。

人権学習シリーズ

公正な採用選考を目指して

飯山公共職業安定所長 木村 敦男

皆さま、ご承知のこととは存じますが、わが国では憲法22条で基本的人権の一つとしてすべての人に「職業選択の自由」を保障しています。「職業選択の自由」すなわち「就職の機会均等」とは、誰でも自由に自分の適性・能力に応じて職業を選べるということですが、これを実現するためには、雇用する側が、「公正な採用選考」を行うことが求められます。

公正な採用選考の基本は、大きく2点にあります。

■応募者に広く門戸を開く
募集を行う際には、採用条件に合ったすべての人が応募できる原則を確立する必要があります。恣意的にごく限られた人にしか門戸を開かない、一部の人を排除する等では就職の機会均等を表現することはできません。

■適正・能力のみを採用基準とする
公正な採用選考とは「応募者が、自社で求めている職

務を遂行する上で必要な適性と能力を持っているかどうか」を基準とした選考を行うことです。たとえば、本籍地や家族の職業など「本人に責任の無い事項」や、宗教や支持政党など「本来自由であるべき事項(思想・信条にかかわること)」は、本人が職務を遂行できるかどうかには関係のないことです。また、適性・能力に関係のない事項は、それらを採用の基準にしないこととするだけでなく、応募用紙に記載させたり面接において尋ねたりしないことも重要です。

「公正な採用選考」は、働く人(働きたいと応募してきた人)を「尊重」ことが根本です。働く人を尊び、ひとりひとりの個性や能力を十分に発揮してもらうことが、企業の発展にも繋がると考えておりますので、事業主の皆さま方には「ご理解とご認識を深めていただきますようお願い申し上げます」。

じて他校の児童同士で交流してもらおうことを目的に夏と冬の年2回開催しています。

参加者は市内児童館・児童クラブ・児童センターの児童と職員約50名。人気種目の「キンボール」や「ドッジビー」の他、身近な道具でもすぐできる「脳活性化ゲーム」、「ふわっとバドミントン」、「せーの!でPK」の5種目を楽しみました。